

子どもはしょうがないなあ

下校時のことです。小学生と中学生の違いがはっきりとわかるできごとがありました。ほんの一瞬のできごとでしたが、私にはとても興味深いものでした。

中学生の下校を見届けようと、いつものもち場に着いた時です。南から小学生二名がやってきました。一人は毎朝見かける男の子、もう一人は見かけたことのない男の子でした。どちらも四、五年生ぐらいに見えました。

いつも見かけける子は学校帰り、ランドセルを背負っていました。見かけない子は手に小さな紙袋をもっているだけで、どうやら家に帰ってから遊びに来たようでした。

二人はおしゃべりしながら私の前を通過して横断歩道を渡り、反対側に移動しました。ちょうどその時、北側から三年のD・T君が坂を下りてきました。私は北からも南からも車が来ないことを確認して彼の横断を見届けようと思いました。その時です。あいさつをした後に彼の口から出た言葉が、「大人」をしみじみと感じさせました。

「あんなところでゲームやっとなる。」

道路の反対側に目をやると、先ほどの二人の小学生のうち、紙袋をもっていた子が、アスファルトの上にあぐらをかいて、ゲーム機でゲームをやり始めました。ランドセルの子は、立ってゲーム機をのぞき込んでいます。家に帰ってもってきたのはどうやらゲーム機のようなのです。彼らは、車の往来が激しい道路の脇で、人目をはばかることなくゲームの世界をスタートさせたのでした。

その様子を目の当たりにしたD・T君は、「子どもはしょうがないなあ」と言わんばかりの一言を残し、ジャージのポケットに手を突っ込んで颯爽（さっそう）と通っていきました。私は思わず笑ってしまいました。おかしかったからではありませぬ。「人はやっぱり大人になるんだなあ」と、当たり前のこと

を改めて感じてうれしくなったからです。ゲームをするかしないかが子どもと大人の違いではありません。中学生もゲームに夢中になることはあるでしょうからね。やるべき時か、やるべき場所か、そして、やるべき状況か、それがわかって行動に出せるのが大人です。

小学生にいちばん近い一年生はどうでしょうか。まもなく先輩になります。が、「ついこの間まで小学生だった君たちとは一緒ではないぞ」と胸を張って新入生に言えるでしょうか。先輩としての準備はそこから始まります。二年生はもちろん大丈夫でしょうね。

(二月五日 記)

